

大宜味村第二次観光振興基本計画

大宜味版観光コンテンツ2021

令和3年3月

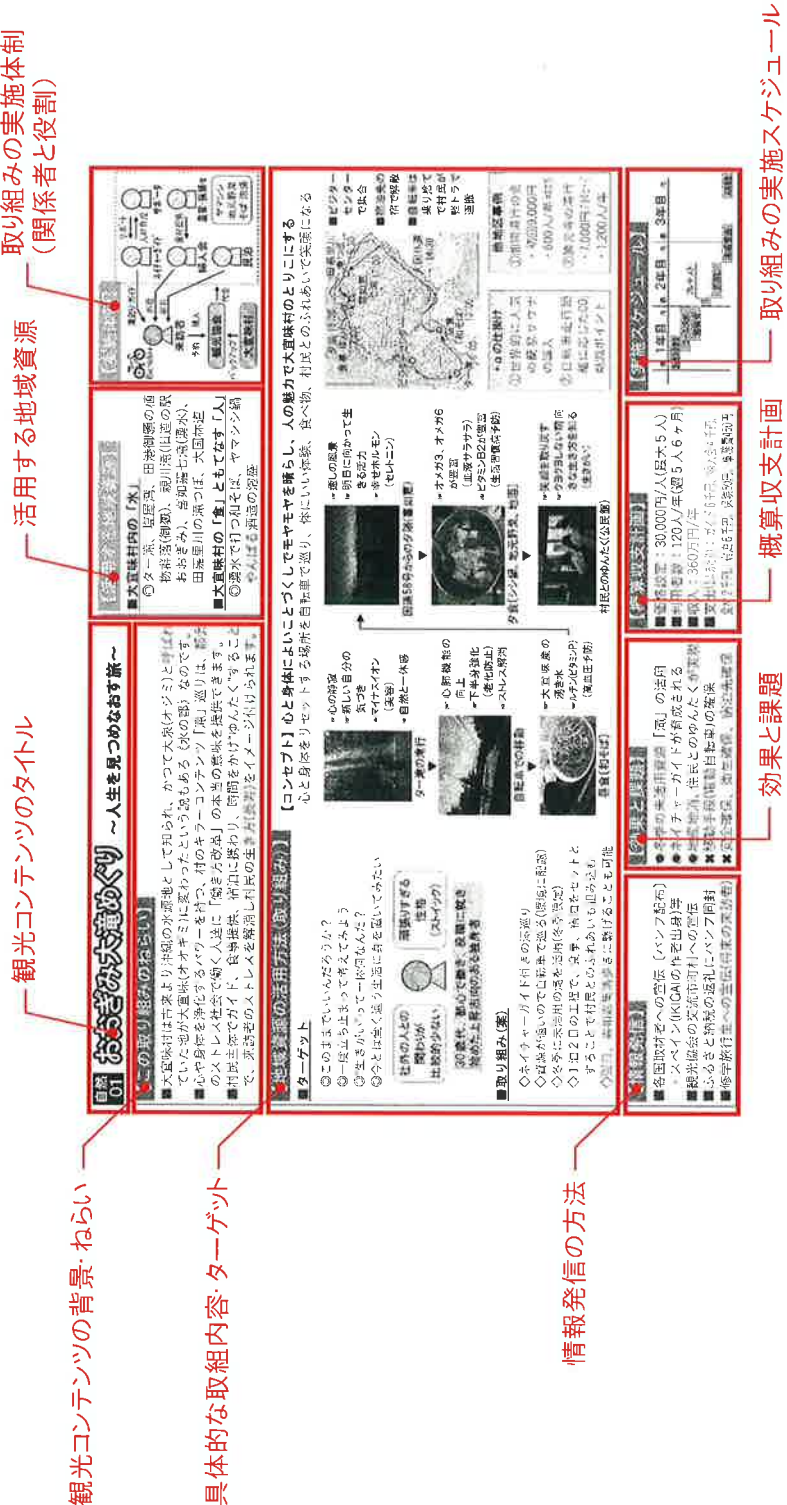
大宜味村

1. 大宜味版観光コンテンツ2021の位置づけ

- 大宜味村第二次観光振興基本計画は、大宜味村の観光振興の方向性を取りまとめた「基本計画」と、それを具体化するための取り組みをまとめた「アクションプラン」の2本立てとなっています。これらは、“大宜味村”が“村民参画”を基本として進めていく取り組みを示したものです。
- 一方で、本書「大宜味版観光コンテンツ2021」は、“事業者”が観光振興に取り組む際のヒントとなる「商品アイデア」を集めたものです。
- 観光コンテンツをそのまま実践することも、要素を取り出し組み合わせ実践することも、事業者の自由な発想で利用できるものとして作成しました。

2. 大宜味版観光コンテンツ2021の構成

- 観光コンテンツは、A4横1ページを基本として掲載しています。
- 各ページでは、観光コンテンツの狙い、活用する地域資源、実施体制、効果と課題、概算収支計画、実施スケジュールを記載しています。



《大宜味版観光コンテンツ2021(事業者の取り組み商品アイデア集)》

【01 自然】

- 01-1 : おおぎみ大滝巡り～人生を見つめなおす旅～
- 01-2 : おおぎみアドベンチャーリズム①
- 01-3 : おおぎみアドベンチャーリズム②

【02 食】

- 02-1 : 蕎麦打ち体験
- 02-2 : 大宜味まるごとシークワーサーづくし～五感で感じるシークワーサー～

【03 人・文化】

- 03-1 : 大宜味陶芸まるごと体験～やちむんを知り尽くす～
- 03-2 : おおぎみファームステイ～大宜味の生き方を学ぶ～
- 03-3 : 大宜味援農体験プログラム①
- 03-4 : 大宜味援農体験プログラム②
- 03-5 : 塩屋湾一周サイクリング
- 03-6 : 塩屋シママーい
- 03-7 : 喜如嘉シママーい
- 03-8 : 根謝銘グスマーい
- 03-9 : おおぎみ体験型企業研修
- 03-10 : 大宜味ちよこつと田舎暮らし
- 03-11 : SDGsを学ぶ旅①
- 03-12 : SDGsを学ぶ旅②
- 03-13 : 島留学のススメ

【04 施設】

- 04-1 : ビジターセンターの活用～イキイキした村民に会える場所～
- 04-2 : 大宜味村役場旧庁舎の活用
- 04-3 : 「道の駅おおぎみ」から「海の家おおぎみ」へ～海と星に近づける場所～

3. 観光コンテンツと対応する基本方針

- 各観光コンテンツが観光振興基本計画のどの基本方針に対応しているかを表に示しました。
- 観光コンテンツを実施していくにあたっては、どの基本方針に対応しているかを意識することにより効果的な取り組みになります。

No.	カテゴリー	観光コンテンツ名	対応する基本方針					
			方針1	方針2	方針3	方針4	重点②	重点③
01-1	自然	おおぎみ大滝巡り～人生を見つめなおす旅～	方針1	方針2	方針3		重点②	重点③
01-2	自然	おおぎみアドベンチャーツーリズム①	方針1	方針2	方針3		重点③	
01-3	自然	おおぎみアドベンチャーツーリズム②	方針1	方針2	方針3		重点③	
02-1	食	蕎麦打ち体験	方針2	方針4				
02-2	食	大宜味まるごとシークワサーづくし～五感で感じるシークワサー～	方針2	方針3	方針4			
03-1	人・文化	大宜味陶芸まるごと体験～やちむんを知り尽くす～	方針2	方針3	方針4			
03-2	人・文化	おおぎみファームステイ～大宜味の生き方を学ぶ～	方針2	方針3	重点②			
03-3	人・文化	大宜味援農体験プログラム①	方針2	方針3	重点②			
03-4	人・文化	大宜味援農体験プログラム②	方針2	方針3	重点②			
03-5	人・文化	塩屋湾一周サイクリング	方針2	方針3	重点③			
03-6	人・文化	塩屋まちなみ	方針1	方針2	方針3		重点③	
03-7	人・文化	喜如嘉まちなみ	方針1	方針2	方針3		重点③	
03-8	人・文化	根謝銘グスクまちなみ	方針1	方針2	方針3		重点③	
03-9	人・文化	おおぎみ体験型企業研修	方針3					
03-10	人・文化	大宜味ちよこつと田舎暮らし	方針2	方針3				
03-11	人・文化	SDGsを学ぶ旅①	方針2	方針3				
03-12	人・文化	SDGsを学ぶ旅②	方針2	方針3				
03-13	人・文化	島留学のススメ	方針5					
04-1	施設	デジタルセンターの活用～イキイキした村民に会える場所～	方針2	方針3	重点①			
04-2	施設	大宜味村役場旧庁舎の活用	方針2	方針3	重点①			
04-3	施設	「道の駅おおぎみ」から「海の家おおぎみ」へ～海と星に近づける場所～	方針2	方針3	重点①			

【この取り組みのねらい】

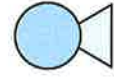
- 大宜味村は古来より沖繩の水源地として知られ、かつてイジミやウジミ、イリミと呼ばれ、『大宜味は“泉”の義』とされてきました。
- 心や身体を浄化するパワーを持つ村のキラコーテンツ「滝」巡りは、都会のストレス社会で働く人達に「働き方改革」の本当の意味を提供できます。
- 村民主体でガイド、食事提供、宿泊に携わり、時間をかけ“ゆんたく”することで、来訪者のストレスを解消し村民の生き方(長寿)をイメージ付けられます。

【地域資源の活用方法(取り組み)】

■ターゲット

- ◎そのままでもいいんだろうか？
- ◎一度立ち止まって考えてみよう
- ◎“生きがい”って一体何なんだ？
- ◎今とは全く違う生活に身を置いてみたい

社外の人との関わりが比較的少ない



頑張りすぎた性格(ストイック)

30歳代、都心で働き、役職に就き始めた上昇志向のある独身者

■取り組み(案)

- ◇ネイチャージャーガイド付きの滝巡り
- ◇資源が遠いので自転車で巡る(環境に配慮)
- ◇冬季に未活用の滝を活用(冬季限定)
- ◇1泊2日の工程で、食事、宿泊をセットとすることで村民とのふれあいも組み込む
- ◇翌日、喜如嘉集落歩きに繋げることも可能

【情報発信】

- 各国取材者への宣伝(パンフ配布)
- スペイン(IKIGAI)の作者出身)等
- 観光協会の交流市町村への宣伝
- ふるさと納税の返礼にパンフ同封
- 修学旅行生への宣伝(将来の来訪者)

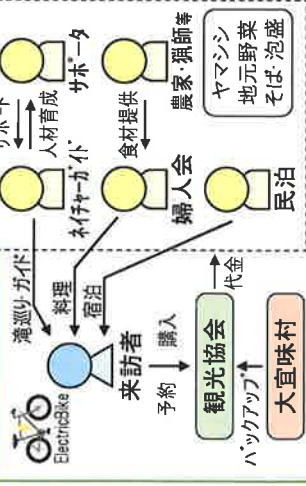
【効果と課題】

- 冬季の未活用資源「滝」の活用
- ネイチャージャーガイドが育成される
- 地産地消、住民とのゆんたくが実現
- ✖移動手段(電動自転車)の確保
- ✖安全確保、衛生確保、宿泊先確保

【活用する地域資源】

- 大宜味村内の「水」
 - ◎ター滝、塩屋湾、田港御願の植作物群落(御嶽)、親川滝(旧道の駅おおぎみ)、喜如嘉七滝(湧水)、田嘉里川の滝つぼ、大国林道
- 大宜味村の「食」ともてなす「人」
 - ◎湧水で打つ和そば、ヤマシシ鍋やんばる酒造の泡盛

【実施体制】



【コンセプト】心と身体によいことづくしでモヤマヤを晴らし、人の魅力で大宜味村のとりこにする

心と身体をリセットする場所を自転車で巡り、体にいい体験、食べ物、村民とのふれあい笑顔になる



- 心の静寂
- 新しい自分の気づき
- マイナスイオン(美容)
- 自然と一体感

ター滝の滝行



- 癒しの風景
- 明日に向かって生きたる活力
- 幸せホルモン(セレトニン)

国道58号からの夕陽(喜如嘉)



- 心肺機能の向上
- 下半身強化(老化防止)
- ストレス解消

自転車での移動



- オメガ3、オメガ6が豊富(血液サラサラ)
- ビタミンB2が豊富(生活習慣病予防)

夕食(シシ鍋、地元野菜、地酒)



- 大宜味産の湧き水
- ルチン(ビタミンP)(高血圧予防)

昼食(和そば)



- 笑顔を取り戻す
- クヨクヨしない前向きな生き方を知る(生きがい)

村民とのゆんたく(公民館)



+αの仕掛け

- ①世界的に人気の簡易サウナの導入
- ②自転車走行距離に応じたCO2削減ポイント

他地区事例

- ①湘南滝行の会
 - ・初回9,000円
 - ・600人/年(半数)
- ②勝光寺の滝行
 - ・7,000円(随時受付)
 - ・1,200人/年

【実施スケジュール】

春	1年目	冬	2年目	冬	3年目	冬
	別荘集落		コースづくり		プレテスト	
			観光協会		見直し	
						本格実施
						本格運営

【概算収支計画】

- 価格設定：30,000円/人(最大5人)
- 利用者数：120人/年(週5人6ヶ月)
- 収入：360万円/年
- 支出(1人あたり)：ガイド6千円、婦人会4千円、食料2千円、宿泊6千円、保険50円、事務費450円

アドベンチャーペンチャーズのおおきみ

【この取り組みのねらい】

- 大宜味村、国頭村、東村を含む沖縄本島北部三村の世界自然遺産登録後、国内外の多くの観光客が訪れることが予想されます。ただ消費される観光地ではなく、大宜味村の地域が有する地形、自然資源、人的資源、伝統文化、その他の資源を守りつつ持続的に観光客を呼び込むための持続可能な観光地づくりを目指します。
- モノ消費からコト・体験型消費への移行や、自然回帰が海外富裕層の旅行トレンドになってきています。

【地域資源の活用方法(取り組み)】

- ターゲット
 - ◎30代～40代(国内外)
 - ◎初めての地域を訪れ、人との出会いや地域の文化に溶け込もうという意識高い人の環境に対する意識が高く、アウトドア好き
 - ◎高学歴・高収入層

【取り組み(案)】

◇アドベンチャーリズムとは、「アクティビティ」「自然」「異文化体験」の3つの要素のうち2つ以上で構成される旅行形態である。



◇大宜味村の世界に誇れる「自然」「長寿」を存分に活かし、長期滞在と消費拡大を同時に実現できる新たなリズム「おおきみアドベンチャーリズム」を展開する。

【情報発信】

- WEB村・観光協会等のホームページ等)、SNS等での情報発信(多言語)
- 海外向けに各国取材への宣伝、FAMトリップの実施
- パブリシティの活用(アウトドアメディア、航空会社機内誌、クレジットカード会員向けメディア等)
- 国内外アドベンチャーリズム団体・事業者への情報提供

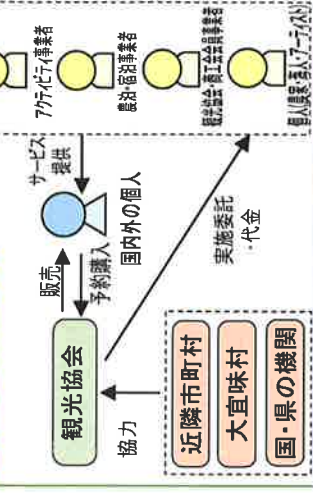
【効果と課題】

- 消費金額の高い観光客の取込みで地域関連事業者の利益率が向上する
- 地域資源の活用と持続可能性の両立の実現
- 高付加価値・長期滞在型商品の開発につながる
- スキルの高いネイチャーガイドの育成につながる
- 安全性リスクマネジメント
- 大宜味ならではの特別感の演出、ガイドの語り口など仕掛け作り
- 高付加価値の商品開発と長期滞在旅行に繋がる受入体制作り

【活用する地域資源】

- 大宜味の自然・文化・人
 - ◎山、海、川、滝、日常の生活、伝統工芸(芭蕉布)、クラフト、食(長寿食・特産品)、村民
- アクティビティ
 - ◎カヤック、カヌー、トレッキング、バイク、キャンプ

【実施体制】



【コンセプト】大宜味村の世界に誇れる自然長寿を存分に活かし、長期滞在と消費拡大を同時に実現できる新たな旅行の形態を展開していく。

【内容】



アクティビティ

カヤック、バイク、ハイク&リバー・トレッキングなど。

自然

やんばるの山の散策、植物で昔ながらの道具作り、キャンプなど。

異文化

伝統行事への参加、健康長寿食作り、お年寄りの話を聴く(昔話)など。

◇標準パック商品(基本商品)に加え、利用者の要望に対応し、コンテンツを合わせた商品の提案も行う。(高付加価値商品の提案)

国内向け商品
→3泊4日コースで複数プラン提供する。

海外向け商品
→5泊以上の基本コースプランとオーダーメイドプランを提供する。

◇宿泊について
ホテル、民宿、農泊、グランピング、キャンプカーなど、お客様の要望に応え手配する。

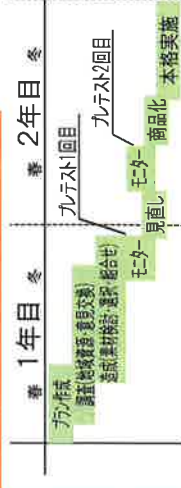


◇ネイチャーガイドについて
オプションプランとして、ネイチャーガイド同行プランを提供する。

【概算収支計画】

- 価格設定：10万円～35万円/人
- 利用者数：10人/年
- 収入：100～350万円/年
- 支出：※国内3泊4日の場合
(1日当たり)宿泊費30,000円、食事代15,000円、アクティビティ30,000円、その他5,000円、運営事務局(20%)20,000円、

【実施スケジュール】



食 02-1 やんばる蕎麦打ち体験

～大宜味産和そばを自分で打って味わ～

【この取り組みのねらい】

- 江洲集落では和そば生産の取り組みが10年以上続いており、和そばへの馴染みが薄い県民にも大宜味の名物として認知されてきている。
- 沖縄県で唯一の和そばの生産地で蕎麦打ち体験できることは、県内在住者にはとても貴重な機会であり、大宜味産和そばのおいしさをより広くそとして身近に感じ知ってもらうことで大宜味村をアピールし、何度も大宜味村を訪れたくなるようなリピーターを作ることにつなげていく。

【地域資源の活用方法(取り組み)】

- ターゲット
 - ◎ 大宜味産の和そばを食べてみたい
 - ◎ 和そば打ちに興味がある
 - ◎ 大宜味産の器に興味がある

■ 取り組み(案)

◇ 大宜味村蕎麦生産組合では、江洲住民の交流行事として「江洲チャンプルー食堂」というそば打ち体験会を開催している。この体験会のノウハウを生かし、普段和そばに馴染みのない沖縄県民向けに連年でそば打ちを体験できるようにする。

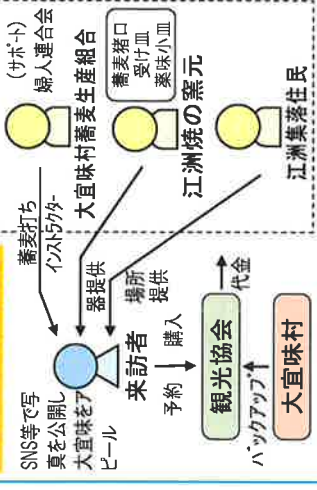
◇ 挽きたたの和そばの香りを楽しんでもらうため、石臼でそばの挽き粉を作る所から始め、そば打ちの一連の流れを体験する。

◇ 和そばの美味しさを存分に味わってもらうことが第一であるが、そば以外のメニュー又は特典などがあることで、よりお得感が得られ満足度が増すと考えられる。

【活用する地域資源】

- 大宜味産の和そば
 - ◎ 沖縄県内唯一の和そば生産地
- 江洲公民館
 - ◎ そば打ち体験及び食事会場
- 大宜味の焼き物(江洲焼)
 - ◎ 近所の窯元の器を利用し、気に入ったら購入できるような協力体制(田場窯、江洲窯など)

【実施体制】



【コンセプト】沖縄唯一の和そば産地・大宜味村で、「挽きたたて！打ち立て！ゆでたて！」の本物の和そばを存分に味わってみよう！自分で打ったそばは格別！この和そばを味わうために、また大宜味に行きたくなる！

【全国で行われている人気のそば打ち体験事例】

- 静岡・伊豆高原(伊豆高原体験村・観音亭)
 - 天ぷら付き本格そば打ち体験
時間：1～2時間 料金：2,600円/1人
- 神奈川・鎌倉(鎌倉長谷 菜庵)
 - そばの食べ方を選べる。(せいろ、すだち等)
エプロン・日本製手ぬぐい付き
時間：約2時間 料金：4,500円/1人
- 長野・安曇野(ビレッジ安曇野)地元農家の方が指導。
 - そば打ち体験のみ(持帰り4人分)
そば打ち体験と試食(残り持帰りOK)
そば打ち体験と試食(残り持帰りOK)
時間：約90分 料金：2,160円～3,240円/1人

◇ 上記の事例を参考にすると、「そば打ち体験+試食→残りを持帰り」とすることで、楽しいそば打ち体験の思い出と共に家に帰り、もう一度家でも蕎麦の味を味わえる。→ 大宜味村にまた行きたい！→ リピーターになる

◇ 食器は江洲焼のやちむんを使用する。

江洲集落の近くに窯元があり、そこで制作されたやちむんを蕎麦を食する際に使用。体験者に大宜味ではやちむん作りが盛んなこと、近くに窯元があり見学可能であることなどを併せて宣伝することで、蕎麦以外の大宜味村の魅力も知ってもらい、購入や次回の来訪につなげていく。

◎ 近隣の窯元

- ・ 田場陶器
- ・ 江洲窯 など



和そばを食す際に必要な器を、地元大宜味産のやちむんで！
※イメージ
そば器・そば徳利
そば皿・蕎麦皿



◆ スケジュール(案)

- 11:00 江洲公民館に集合
 - ・ 受付、流れを説明
 - ・ 準備
 - ・ そば打ち体験→試食
- 13:00 解散
- ◎ 昼食時間に合わせて実施
- ◎ 打った蕎麦の半分は試食、半分は持帰り家で味わう

◎ そばの花が咲く時期(年2回)は、そば畑の見学もメニューに組み込む

【情報発信】

- 各観光案内所にパンフ設置
- ふるさと納税の返礼にパンフ同封
- TVの県内情報番組で紹介してもらう
- ビジターセンターにポスター(来訪者に知ってもらう)
- 村・観光協会等のホームページ、SNS等で宣伝

【効果と課題】

- 大宜味産和そばをより広く周知
- 沖縄県内観光客の増加
- 大宜味村の認知度向上
- ✖ 蕎麦生産組合、窯元、地元の協力
- ✖ 予算・準備資金の確保

【概算収支計画】

- 価格設定：2,500円/人(定員10人/1回)
- 利用者数：960人/年(土日のみ20人)
- 収入：240万円/年
- 支出：講師代、そば打ち材料費、そば打ち機材レンタル費、雑費

【実施スケジュール】

1年目	2年目
<ul style="list-style-type: none"> 協力体制(例) 観光協会 大宜味村蕎麦生産組合 やちむん産元 江洲公民館 	<ul style="list-style-type: none"> プレテスト 見直し 本格実施

【この取り組みのねらい】

- 年々増加する農作業をやってみたいという都市住民に、援農体験の場を提供することにより交流人口、域内消費額の増加はもちろんのこと、大宜味村の抱える農業の人手不足解消にもつながります。
- 都市圏の参加者に農業や収穫、山の暮らしの体験などを通じて環境を保全しながら、大宜味の地域資源を持続可能な形で利用してゆく仕組みづくりを行います。

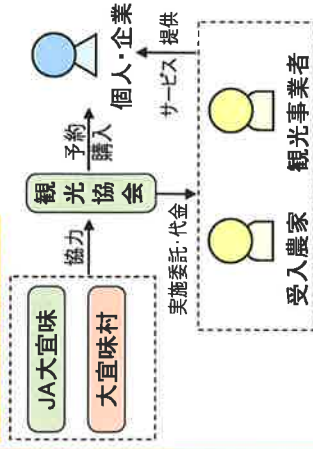
【地域資源の活用方法(取り組み)】

- ターゲット
 - ◎ 農作業を体験したい人
 - ◎ 田舎暮らしを体験したい人
 - ◎ 週末農業を体験したい人
 - ◎ CSR活動(企業の社会的責任)として農作業体験を取り入れている企業
 - ◎ 将来的に長期滞在の外国人も視野に。
- 取り組み(案)
 - ◇ これまでの民泊(農泊)事業とは別に、農作業ベースのプログラムとする。
 - ◇ 大宜味村では農業の人手不足が顕著である。(例えば、シークワサー農家は高齢により収穫が間に合わずにやむを得ず廃棄にしてしまう事例もある。)
 - ◇ 収穫時期等を年間スケジュール化し、対象となる農作物の時期による受入農家の紹介、作業内容等を告知して参加者を募集。
 - ・ 県内都市部の住民、企業(1泊2日)
 - ・ 県外都市部の住民、企業(1泊2日～2泊3日)

【活用する地域資源】

- 大宜味の農産品・水産品
 - ◎ シークワサー、お茶、大宜味産そば、芭蕉、カカオ、カラキ等
- 大宜味村の「食」もてなす「人」
 - ◎ 大宜味村の採れる農林水産物を使った地元メシ、農林水産業従事者、ネイチャーガイド、健康長寿なおじい、おばあ、農泊(民泊)

【実施体制】



【コンセプト】 援農を通じて大宜味村の暮らしや文化を体験する。

■ シークワサーの収穫作業をお手伝い(案)

【基本スケジュール(案) ※1泊2日3食付】

- (1日目)
- 15:00 集合
 - 15:30 スケジュール・作業内容等説明
 - 17:30 農作業体験開始
 - 18:30 宿泊先となる農家宅へ移動
- (2日目)
- 5:30 起床
 - 6:30 農作業開始
 - 8:30 畑で朝食(農家さん手作り弁当など)
 - 9:00 農作業続き
 - (この時に昼食を作るグループと農作業を続けるグループに分かれるもの)
 - 12:00 農作業終了
 - 12:30 宿泊先に戻り昼食(地元食材を使った地元メシ)
 - 14:00 解散



- ◇ 収穫した農作物の一部はお土産としてお持ち帰り可能。レシビなどと一緒に提供することで、大宜味村で過ごした思い出となり次回へのリピーターや移住へのきっかけになる可能性も考えられる。
- ◇ 農作業以外にも大宜味村を楽しんでもらえるようオプションを用意する。
- ※ 村内で体験プログラムを提供している事業者等と連携
- まち歩き
- 長寿料理教室
- 地元食材を使い、地元ならではの料理や健康的な食事の作り方を学ぶ。レシビは持帰れるようにする。
- モノづくり体験
- 大宜味村は、芭蕉布や陶芸・木工など工芸が盛んであることから、地元各工房に協力してもらいたい体験可能とする。

【情報発信】

- 都市部でのPR活動(農産品関連イベントへの出店、チラシ配布等)
- CSR活動、SDGs(持続可能な開発目標)に取組む企業や団体へPR
- WEB(村・観光協会等のホームページ等)、SNS等で宣伝

【効果と課題】

- 既存の地域資源を活かした交流人口・域内消費額の増加
- 村民と参加者との交流、コミュニケーションの促進
- 農家の農作業負担の軽減
- 受入農家の確保
- × プロモーション・受入のための組織機能強化
- × 参加者の安心・安全の確保

【概算収支計画】

- 価格設定：6,000円+税/人(1泊3食付)
- 利用者数：200人/年(40週×5名)
- 収入：120万円/年
- 支出：受入農家(民泊含む)3,600円、食事代1,500円、保険料300円、事務局(10%)600円、その他オプション費

【実施スケジュール】

1年目 冬	2年目 冬
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日
6月 1泊2日	6月 1泊2日
7月 1泊2日	7月 1泊2日
8月 1泊2日	8月 1泊2日
9月 1泊2日	9月 1泊2日
10月 1泊2日	10月 1泊2日
11月 1泊2日	11月 1泊2日
12月 1泊2日	12月 1泊2日
1月 1泊2日	1月 1泊2日
2月 1泊2日	2月 1泊2日
3月 1泊2日	3月 1泊2日
4月 1泊2日	4月 1泊2日
5月 1泊2日	5月 1泊2日

大宜味援農体験プログラム②

～農家と都市住民の出会い～

【この取り組みのねらい】

- 大宜味村は、高齢化や過疎化の進行で、農業に必要な人材確保が困難な状況。
- 都市部では、自身の健康を考え農業・農作物に関心が増えています。
- 農産物は自然の恵みであり人々の食を支えている大切なものです。大宜味村では、農産物生産のための農業を行うことに手助けが必要とされています。
- 農家の人手不足解消と都市部住民のニーズにあった、農業体験を通じた社会貢献意欲を満足させるプログラム。

【地域資源の活用方法(取り組み)】

■ ターゲット

- ◎ 沖縄の農産物や農作業に興味がある都市住民
- ◎ 食についてもっと子供達に知ってもらいたいと考えている家族
- ◎ 安全で質の高い農作物や伝統的な「やんばるの食文化」に興味がある人
- ◎ 家庭菜園等で野菜作りを行っている人
- ◎ いる人でもっと農業を知りたい人
- ◎ 農村地域の生活に興味がある人
- ◎ 困っている農家を支援したい気持ち強い人



■ 取り組み(案)

- ◇ 大宜味村押川では高齢化や人手不足で特産のシークワーサーが未収穫となり商品として収穫されずに捨てられている現状にあります
- ◇ シークワーサー収穫の農繁期に、人手不足の農家を支援することができれば、シークワーサーを無駄にせず有効に活用することができそうです
- ◇ 県外客へは沖縄旅行も兼ねた滞在型農業体験とした商品も考えられます



【コンセプト】 援農を通じて農業の大変さ・大切さを実感し、食の重要性を知る

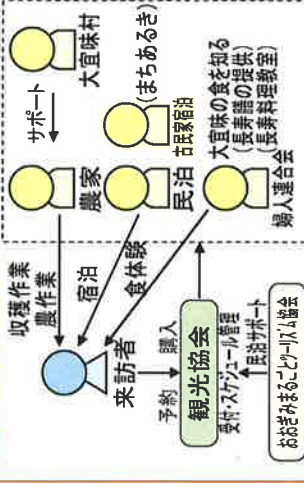
- ◇ 県内中南部の都市部生活者に対しては、やんばるでの農村生活体験としての利用が考えられます
- ◇ 農作業と合わせて大宜味の長寿に関連した食について農家から生の声を聴くことで食の重要性に気づく
- ◇ 農家が人手を必要とする作業に合わせて援農者を募集する(土作り・草刈り・種まき・農作物の選定作業・収穫・回収運搬 等)
- ◇ 農家民泊と合わせて実施することで、長寿につながるおまじみの日常生活や食を知ることができ
- ◇ 農作業の後にみんなでBBQをしながら農業や生活の話を聞くことで、農業の実態を知る(地元農家との交流)
- ◇ 長期滞在の場合は、農作業が終わってから、大宜味ならではの各種体験を組み合わせることで、楽しく援農が続けられるようになる
- ◇ 収穫作業だけでなく収穫したシークワーサーの加工(ジャムやジュース)作業も考えられる
- ◇ 援農体験後、より深く農業を知りたい人向けに農地レクチャーして農作業を行う(耕作放棄地の活用)



【活用する地域資源】

- 大宜味の農作物
 - ◎ 大宜味村特産のシークワーサー
- 農家民泊
 - ◎ 農家民泊、古民家宿泊
- 大宜味の地元食を食べる
 - ◎ おまじみの地元料理、長寿食、島野菜

【実施体制】



■ シークワーサーの収穫作業支援体験

【1泊2日(農家民泊)を想定した援農体験プラン】

- 1日目
 - ・ 10:00 ビジターセンターに各自集合
 - ・ 10:00～農作業の作業説明
 - ・ 10:15～各農家に移動して収穫開始
 - ・ 12:00～昼食(各農家毎の昼食)
 - ・ 13:00～収穫作業再開
 - ・ 15:00～三時茶(休憩・ゆんたく)
 - ・ 15:30～作業再開(運搬・選別)
 - ・ 17:00 作業終了⇒民泊農家へ
 - ⇒ 受入農家と一緒に夕食準備
 - ⇒ 18:00～夕食・入浴・懇親会
- 2日目
 - ・ 7:00 起床⇒朝食準備(自炊)⇒朝食
 - ・ 8:00～農地に移動⇒収穫作業開始
 - ・ 10:00～十時茶(休憩・ゆんたく)
 - ・ 10:30～収穫作業再開
 - ・ 12:00～作業終了⇒昼食(長寿膳)
 - ・ 13:00～シークワーサージャム作り体験⇒試食
 - ・ 15:00 終了、後片付け・各自解散



【情報発信】

- 全国の農家・農業求人サイトへ掲載
- 修学旅行で民泊に訪れた学校
- 観光協会によるPR
- 援農支援サイトに登録

【効果と課題】

- ◎ 農業・農村の活性化に役立っているという充実感
- ◎ 農家の意欲や活力の向上
- ◎ 遊休農地、未収穫農作物の活用
- ✖ 作物により収穫時期が限定される
- ✖ 安全確保、衛生確保

【概算収支計画】

- 価格設定：10,000円
- 利用者数：360人/年(月30人12ヶ月)
- 収入：360万円/年(民泊含む)
- 支出：民泊5千円、婦人連合会1千円、保険料50円、事務費等450円

【実施スケジュール】

年	1年目	2年目	3年目
準備	準備	準備	準備
実施	実施	実施	実施
評価	評価	評価	評価
見直し	見直し	見直し	見直し
本格実施	本格実施	本格実施	本格実施

【この取り組みのねらい】

- 沖繩八景の1つである「塩屋湾」周辺は比較的平坦な地形であるため、潮風を感じ風光明媚な景色を眺めながら沿岸を自転車から沿岸を自転車で走るには最適である。距離的にも一周するのに1時間足らずで周れることから、気軽に塩屋湾の自然を体感できる。
- 自転車で周りながら、途中で各集落(白浜・大保・屋古・塩屋・宮城)に立ち寄り、塩屋湾のウングミの際に使われる場所や、その集落に伝わる歴史や文化・伝説などの見所に触れることでより興味深く大宜味村のことを知ってもらえる機会にする。

【地域資源の活用方法(取り組み)】

■ ターゲット

- ◎ 気軽にサイクリングを楽しみたい
- ◎ 美しい景色を楽しみたい
- ◎ 集落巡りに興味がある
- ◎ 地域独自の文化に興味がある

■ 取り組み(案)

- ◇ 沖繩八景の1つとされる「塩屋湾」の沿岸を美しい景色を楽しみながら、自転車で巡るコースを設定。
- ◇ 自転車はビジターセンターのレンタサイクルを利用。発着はビジターセンターとする。

※参考▶ 近傍地区レンタサイクル料金
 ■ ゆいゆい国頭▶ 500円/3時間
 ※ビジターセンターではレンタサイクルは現在準備中。
 ゆいゆい国頭同等の形態で提供予定とのこと。

- ◇ 途中の集落に立ち寄り、その集落の歴史スポットや、独特な文化・慣習を感じられる場所を案内しながら巡ることで、ただ沿岸をサイクリングするだけでなく、より深く大宜味村のことを知る機会になる。

【情報発信】

- 各観光案内所・ビジターセンターにパンフ設置
- ふるさと納税の返礼にパンフ同封
- 修学旅行生への宣伝(将来の来訪者)
- 村・観光協会等のホームページ、SNS等で宣伝
- 県・村の広報誌にツアー体験を掲載

【効果と課題】

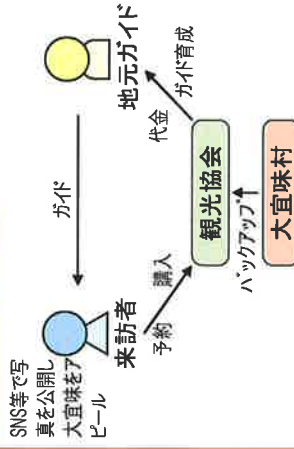
- 地域資源の魅力を再発見すること
 で、保存・継承への理解につながる
- リピーターや新規顧客の獲得
- ✕ 拝所など聖域での利用マナー等
- ✕ ガイドの確保、育成
- ✕ 地元住民の理解と協力

【活用する地域資源】

■ 塩屋湾

- ◎ 沖繩八景の1つ。緑の山に囲まれ静かな入り江が広がる風光明媚な景色。
- 塩屋湾周辺集落
- ◎ 塩屋湾周辺集落の歴史・文化・風習等。
- 塩屋湾のウングミ
- ◎ 国の無形民俗文化財に指定されている伝統的な行事。(毎年旧盆明けに開催)

【実施体制】



【コンセプト】 静かで穏やかな美しい海と緑豊かな山をバックに、潮風を感じながらゆっくりとサイクリングすること、都会の喧騒を忘れて心穏やかな休日過ごす

【塩屋湾1周サイクリングコース(案)】



◇ 国の重要無形民俗文化財である「塩屋湾のウングミ」ゆかりの場所を巡ることで「仮想塩屋湾のウングミ」体験ができる。

◇ スケジュール(案)

- 11:00 集合 (やんばるの森ビジターセンター) 出欠確認、説明、自転車貸出等
- 11:10 出発 白浜→大保→田港→屋古→塩屋→宮城
- 12:40 帰着 (やんばるの森ビジターセンター) 自転車返却、解散
- ※1時間30分～2時間のツアーを想定

【実施スケジュール】

春	1年目	冬	春	2年目	冬
	地元ガイド育成				
	コースの決定				
	見直し				
					本格実施(随時内容を見直し)

【概算収支計画】

- 価格設定：1,000円/人(定員10人)
- 利用者数：960人/年(土日のみ20人)
- 収入：96万円/年
- 支出：レンタサイクル代、ガイド代、保険代等

【この取り組みのねらい】

- 塩屋園地を中心とした周りの集落は、細い路地(すーじぐわー)に瓦屋根の古い家屋が残る町並み、地域の風習や文化を感じられる拝所、大宜味に縁のある歌の歌碑など見所も多く、コンパクトなシマ歩きを楽しむことが可能であり、気軽に立ち寄りまち歩きを体験してもらいたい大宜味村の良さを知らう。
- 国道から近く、山に登らなくても素晴らしい塩屋湾の眺望が見られる塩屋園地を気軽に立ち寄り寄れる大宜味村の観光スポットとしてもアピールする。

【地域資源の活用方法(取り組み)】

- ターゲット
 - ◎シマ歩きに興味がある、気軽にまち歩きしたい
 - ◎細い路地を歩くのが好き
 - ◎静かな塩屋湾で、ゆったりしたい
 - ◎穴場スポットを知りたい

取り組み(案)

- ◇地元ガイド付きで塩屋集落を散策
- ◇細いすーじぐわー(路地)をホロホロ(ぶらぶら)し、都会にはない景観をゆったりとした時間の中で楽しみつつ、「何があるんだろっ?」というワクワク感も楽しむ。
- ◇昔から継承されている「ウングミ(海神祭)」にまつわる拝所など巡り、地域独特の祭祀や歴史・文化を知ってもらおう。
- ◇ウングミに使用するハーリー船が見られれば、より大宜味の伝統文化に興味があわく。
- ◇抜群の眺望を有する塩屋園地を広く知ってもらおう。

【活用する地域資源】

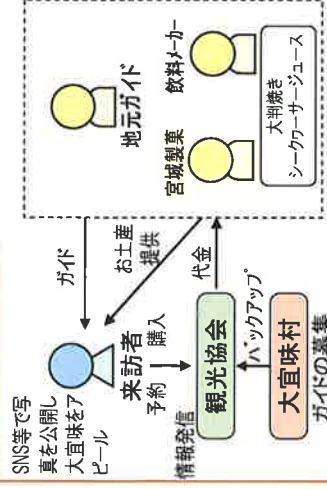
塩屋集落

◎細い路地に瓦屋根の古い家屋が多く残る町並み。今も残る地域独自の文化である御嶽や拝所、沖繩で有名な歌の歌碑など。

塩屋園地(神門(ハーミンゾウ))

◎沖繩八景の一つである塩屋湾や塩屋大橋、周辺集落を見渡す眺望。

【実施体制】



【コンセプト】「なんで〜寄っていけばいい〜さ〜!」とお誘いしたいまま歩き。気軽に立ち寄りすーじぐわーをのんびりほろほろしてみたら、心も体もリフレッシュできること間違いなし。

塩屋シマま〜いルート(案)

<集合場所: 旧塩屋小学校正門前>

The map shows the proposed route starting from the former Oyaumi Elementary School main gate. Key stops include: ① Salt Shop (塩屋売店), ② Garden Site (塩屋園地), ③ Asagi-Nigami-Senryu's Shrine (アサギ・ニガミ・森川子の宮), ④ Suji-gawa (すーじぐわー), ⑤ Endou's Flower Song (えんどうの花歌碑), ⑥ Wafuchidaki (ウフチダキ), ⑦ Oyaumi Shrine (大宜味神社), ⑧ Shinaba (シナバ), ⑨ Oyaumi Village (大宜味村), and ⑩ Oyaumi Shrine (大宜味神社). Descriptions for each stop are provided, such as '塩味のある外観' (Exterior with salt flavor) for the Salt Shop and '花売りの縁の歌碑' (Flower seller's song monument) for the Garden Site.

The schedule for the Oyaumi Shima-mai route is as follows:

- 14:00 集合 (Gathering) at the former Oyaumi Elementary School main gate. ☆散策ルートの説明等(5分) (5-minute explanation of the walking route).
- 14:05 出発 (Departure) from the Salt Shop (塩屋売店).
- ① 塩屋園地 (Garden Site) - Group photo and looking at the flower seller's monument.
- ② アサギ・ニガミ・森川子の宮 (Asagi-Nigami-Senryu's Shrine) - Looking at the Suji-gawa monument.
- ③ すーじぐわー散策 (Suji-gawa walking) - Looking at the Endou's flower song monument.
- ④ えんどうの花歌碑 (Endou's flower song monument) - Looking at the Wafuchidaki monument.
- ⑤ ウフチダキ (Wafuchidaki) - Looking at the Oyaumi Shrine.
- ⑥ 大川共同店 (Oyaumi Shrine) - Looking at the Oyaumi Shrine.
- ⑦ シナバ (Shinaba) - Looking at the Oyaumi Shrine.
- 15:00 帰着 (Arrival) at the former Oyaumi Elementary School main gate (Oyaumi Village).
- 旧塩屋小学校正門前帰着 (お土産) (Souvenir) - Looking at the Oyaumi Shrine.
- みやぎ製菓店の大判焼き (みやぎ製菓店の大判焼き) - Looking at the Oyaumi Shrine.
- シークワサージュース (シークワサージュース) - Looking at the Oyaumi Shrine.
- 〜解散〜 (Dispersal)

 ※実施する時間帯は季節により変える(夏は午前中に実施)

【情報発信】

- 各観光案内所・ビジターセンターにバナー設置
- ふるさと納税の返礼にパンフ同封
- 修学旅行生への宣伝(将来の来訪者)
- 村・観光協会等のホームページ、SNS等で宣伝
- 村の広報に掲載(地元住民向けの発信)

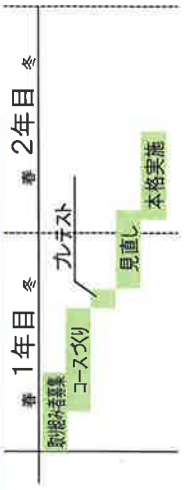
【効果と課題】

- 来訪者の増加
- 大宜味村の良さを広く周知
- ✗塩屋集落住民の理解
- ✗シマ歩きガイドの確保・育成
- ✗シマ歩きの際のマナー等

【概算収支計画】

- 価格設定: 1,500円/人(定員10人/1回)
- 利用者数: 960人/年(土日のみ20人)
- 収入: 144万円/年
- 支出: ガイド代、保険代、お土産代

【実施スケジュール】



根謝銘グスクま〜い

〜グシクノ歴史と
ノロ文化とぶながや探検〜

【この取り組みのねらい】

- 文化庁が策定した「大宜味村歴史文化基本方針(平成22年策定)」にて根謝銘グスクの保存・活用が示されている。
- 文化庁の補助を受け埋蔵文化財調査が行われており、保存活用していくことを村内外へ広く周知し文化財の意義や地域文化をより身近に理解することにつながる。
- 根謝銘グスクの歴史や深い関わりのあるノロを中心とした独特の地域信仰の文化と、大宜味村の不思議な伝説などを併せて知ってもらい興味を促す。
- 地元のことをよく知る方と若い人材が一緒に取り組むことで、地域文化の継承と人材育成につなげていく。

【地域資源の活用方法(取り組み)】

- ◎シマ歩きに興味がある
- ◎城跡・遺跡などに興味がある
- ◎不思議な話に興味がある
- ◎トレッキングしたい
- ◎沖繩の歴史に興味がある
- ◎地域独特の文化に興味がある
- ◎不思議な話に興味がある
- ◎探検してみたい

■取り組み(案)

- ◇根謝銘グスクの遺跡を巡り、建城の歴史や現代に残る文化等学ぶ。
- ◇根謝銘グスクは謝名城・田嘉里集落の聖地とされており、ノロを中心とした地域独特の信仰に関わりが深く、そのゆかりの場所を巡ることで独特の信仰文化を知ってもらう。
- ◇屋嘉比ノロ殿内(大城家)所蔵の、神事の際に使用した衣装や祭祀道具などを見学できるように展示してもらう。
- ◇根謝銘城で目撃証言がある「ぶながや」の話、出現を夜通し待つ「アラミ」の風習のことなど、大宜味村の不思議な伝説や昔話を知る。
- ◇根謝銘城は樹木に覆われ険しい山道のため、トレッキングを兼ねて様々な不思議発見したりドキドキアクワ体験ができる「上城ぶながや探検」。
- ◇地域のことをよく知る地元住民と若い人材が一緒になってガイドをすること、地域文化の継承と共に人材育成にもつながる。
- ◇きれいな水で造られる「やんばる酒造」の工場見学や泡盛の試飲などもコースに組み込む。(地域で使われてきた水(湧水)について知る)
- ◇一通り散策後朝食に「ぶながや弁当」を提供。期間限定で田嘉里でしか味わえない「グラブ(チブ)ダケ」(5月頃)をメニューに盛り込む。
- ◇参加者には泡盛のお土産(子供にはシークワサージュースのお土産)付き。

【情報発信】

- 各観光案内所にパンフ設置
- ふるさと納税の返礼にパンフ同封
- 歴史好きが集まるサイト等で宣伝
- 村・観光協会等のホームページ、SNS等で宣伝
- TVの県内情報番組で紹介してもらう
- ビクターセンターがツアー(来訪者に知ってもらう)

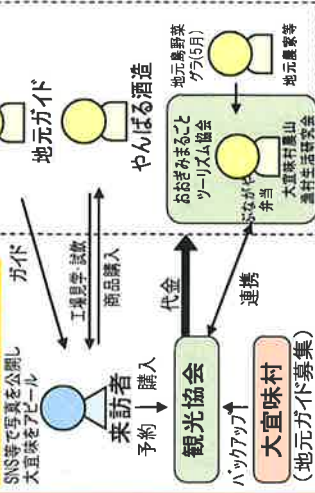
【効果と課題】

- 地域資源の魅力を再発見することで、保存・継承への理解につながる。
- リピーターや新規顧客の獲得
- ×拜所など聖域での利用マナー等
- ×地元住民の理解と協力
- ×やんばる酒造の確保、育成
- ×村内に宿泊できなければ早期の開始が難しい

【活用する地域資源】

- 根謝銘グスク・謝名城・田嘉里集落
 - ◎やんばるのグシク文化やノロを中心とした集落との関係など。
- ぶながや
 - ◎琉球根謝銘グスクに出現するらしい「ぶながや」の物語。
- やんばる酒造・グラ(チンブクダケ)
 - ◎やんばるの水で作られる地元根差した鳥酒。田嘉里で5月頃にしかなわえない幻のたけのこと。

【実施体制】



【コンセプト】まだまだあまり知られていない大宜味の聖地である根謝銘グスクをめぐる、今も伝わる独特な地域文化を知り、「ぶながや」を感じながらディープな大宜味に浸る。

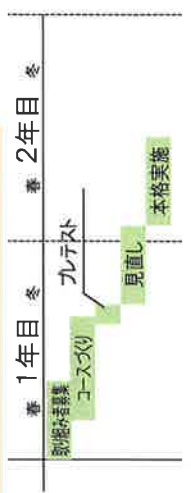
【グスクシマ歩きルート案】



◆スケジュール(案)

7:00	各自集合(旧嘉如嘉小学校) (ぶながやが出そうな朝の 早い時間にスタート)
7:10	出発 謝名城集落散策
7:40	根謝銘グスク散策
8:40	田嘉里集落散策
9:00	田嘉里共同売店前、又は 田嘉里集落センター で朝食(ぶながや弁当) やんばる酒造 工場見学、試飲
10:00	終了 マイクローパスにて移動
10:10	解散場所到着 ～各自解散～ (約3時間を予定)

【実施スケジュール】



【概算収支計画】

- 価格設定：3,000円/人(定員10人/1回)
- 利用者数：960人/年(土日のみ20人)
- 収入：288万円/年
- 支出：ガイド代、弁当代(1個千円)、お土産代、マイクローパス経費、保険代

おおきみ体験型企業研修

【この取り組みのねらい】

- 物見遊山観光から地域で過ごす時間やそこでの生活・体験による経験価値型観光という新しい形の観光へ世間のニーズがシフトしてきている。
- 企業向け体験型企業研修により経済効果、交流人口の増大を図る。
- 「大宜味らしさ」(大宜味独自の価値観)の提供。
- 体験型研修は座学研修に比べ研修後の学習定着率が高く、今では多くの企業が導入している。数日間滞在し、会議室ではなく山、川、海、星空などのオオササイトを活用することで、チームの結束力を高める効果がある。

【地域資源の活用方法(取り組み)】

- ターゲット
 - ◎成果の見える研修の実施方法で悩んでいる県外企業
 - ◎研修旅行(インセンティブツアー)・報奨旅行を検討している県外企業
 - ◎社員同士のコミュニケーションや親睦・友好を深める社員旅行を検討している県外企業

■取り組み(案)

- ◇おおきみ体験型企業研修の特徴
 - ①研修の目的、ゴールを明確にし、研修設計から実施までオーダーメイドで提供。
 - ②大宜味のありのままの自然や暮らしの営みの中で、対話や体験を重視した研修を行い、「気づき」→「思考変容」→「行動変容」につなげる。
 - ③企業価値の向上につながる持続可能な開発目標(SDGs)2030アジェンダへの取り組みを研修に盛り込む。



【情報発信】

- WEB(村・観光協会等のホームページ等)、SNS等での情報発信
- 首都圏旅行会社へ情報提供(プログラム提案、資料提供)
- 企業向け研修、修学旅行受入を行う県内シェアリテーターへ情報提供

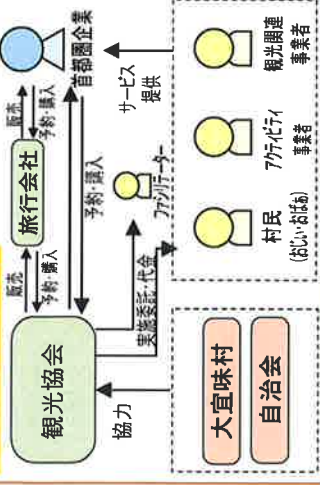
【効果と課題】

- 既存の地域資源を活かした、交流人口、域内消費額の増加
- 村民と参加者の交流、コミュニケーションの促進
- 地域資源の活用と持続可能性の両立の実現
- 交流人口、関係人口を増やすことで地域活性化につながる。
- ✗プロモーション・受入のための組織機能強化
- ✗シェアリテーターの確保、育成
- ✗ホテル等大人数が宿泊可能な施設の確保(団塊・栗村を含む)
- ✗参加者の安心・安全の確保、地元住民の理解と協力

【活用する地域資源】

- 大宜味の自然・生活・人
 - ◎山、海、川、滝、日常生活、食(長寿食)、おじい、おばあ、農家、海人等
- 大宜味村の施設
 - ◎キャンプ場、古民家、公民館、学校跡地、公共施設、道の駅おおきみ
- 大宜味村のアクティビティ
 - ◎カヤック、カヌー、トレッキング、MTB、キャンプ、農漁村体験、ものづくり体験

【実施体制】



【コンセプト】大宜味村の静かな環境においてチームワークを醸成し、心と体のリフレッシュができる！

◇目的別研修例

- ①共通体験、チームビルディング研修
リバートレッキング、カヤック、農業・漁師体験など、様々なアクティビティをチームで行い、チーム連携を高める研修
- ②ビジネスマインドセットアップ研修
不慣れた体験(農作業、火おこし、テント設営等)をし、社会人としてどのような能力が必要なのか学ぶ研修
- ③心と体のリフレッシュ社員旅行を兼ね備えたリフレッシュ研修
大宜味村の村民(高齢者、若者)との交流、豊かな自然に触れることによるメンタルの正常化を図るリフレッシュ研修
- ④大宜味村の地域課題解決研修
大宜味村の抱える地域課題の解決策を参加者と村民で見つけ出し、提案を行う研修
- ⑤SDGs研修(企業価値を高める研修)
自然の森林や山中に実際に入り、自然の実態を学習。持続可能性のための企業責任は何か、理解を深める研修

■モデル日程：2泊3日プラン(案)

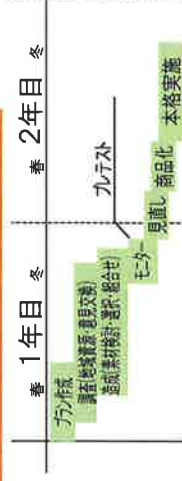
- (1日目) 午前：大宜味村到着
午後：オリエンテーション
大宜味村内散策・研修
夜：ウェルカムパーティー(村民と交流)
- (2日目) 宿泊：ホテル・民宿・キャンプ
午前：研修
午後：研修・成果発表
宿泊：ホテル・民宿・キャンプ
- (3日目) 午前：体験型研修の振り返り、まとめ
午後：大宜味村出発
- ※利用者の要望により研修プランを作成
※研修は、大宜味村の資源を活かした体験型研修・交流とする



【概算収支計画】

- 価格設定：100～300万円/1件
- 利用者数：6組/年(1組10～100名程度)
- 収入：600～1,800万円/年
- 支出：宿泊費、飲食費、バス代、アクティビティ費、体験プログラム費、シェアリテーター費、運営サポート費、保険料、事務局手数料(20%)

【実施スケジュール】



大宜味ちよこつと田舎暮らし

【この取り組みのねらい】

- 家族単位での体験を基本とし、受入家庭と家族ぐるみの交流を行うので、田舎暮らしを通して、人と人との心温まる体験が出来る。
- 物見遊山観光から「地域の日常空間」を楽しむ滞在型観光への転換を図る。来訪者には地域内を回遊してもらい、地域内の消費金額増加、参加者と地域住民が交流し、来訪者の満足度を上げ、再来訪(リピート)意向へつながる。
- 経済効果、住民の誇りの醸成、域外の創造につながる。
- 田舎暮らしに関心をもち家族層が将来移住を考慮するきっかけとなる可能性がある。

【地域資源の活用方法(取り組み)】

- ターゲット
 - ◎田舎暮らしを体験してみたい人
 - ◎20代~40代のファミリー層
 - ◎田舎に第二の故郷を見つけた家族
 - ◎沖縄の親戚的存在を求めている家族

■取り組み(案)

◇都市部に住む人を対象に調査した田舎暮らしに関するアンケートによると、「田舎暮らしに興味がある」と答えた若い世代が半数近くに上ったという。しかし興味はあるものの、実際に移住するにはハードルが高いと考えられる。

◇家族で「田舎暮らし」を体験するツアーで実際に大宜味村での暮らしを「ちょっと」体験し、村民との交流の中で大宜味村の良さを知ってもらい好きになってもらうことで、また来よう！というリピーターや将来は移住したいと本格的に考えらるきっかけ等につなげたい。

【情報発信】

- WEB(村・観光協会等のホームページ等)、SNS等での情報発信
- 県内都市部の市町村役場、観光案内所、道の駅でのPR(チラシ留め置き)
- パブリシティの活用(田舎暮らし系サイト、情報誌等)

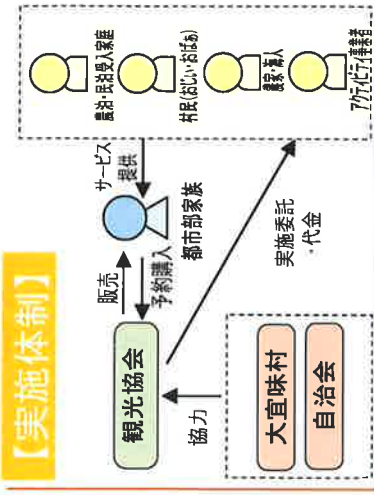
【効果と課題】

- 既存の地域資源を活かした、交流人口、域内消費額の増加
- 村民と参加者の交流、コミュニケーションの促進
- 住民、地域自治会が地域資源の可能性を再確認、地域愛の醸成
- 交流人口、関係人口を増やすことで地域活性化につながる。
- プロモーション・受入のための組織機能強化
- 参加者と地域住民の交流の場を増やす工夫
- 受入農泊、民泊の確保、地元住民の理解と協力
- 参加者の安心・安全の確保

【活用する地域資源】

- 大宜味の自然・生活・人
 - ◎山、海、川、滝、日常の生活、食(長寿食)、古民家、農泊、民泊、おじい、おばあ、村内の子ども達(小中学生)、農家、海人等
- 大宜味村の体験
 - ◎農作物収穫、山・川遊び、BBQ、キャンプ、エイサー、集落毎の行事等

【実施体制】



【コンセプト】田舎暮らしに関心をもち、田舎暮らしの面白さを感じることで、リピーターや将来の移住などにつなげる。

- モデル日程:2泊3日プラン(案) (1日目) 午前:大宜味村集合
午後:村内で昼食
地域住民交流 (農業体験・長寿食)
宿泊:農泊・民泊(もしくはキャンプ)
※大人は飲み会へ参加
- (2日目) 午前:集落散策、地域住民交流(昼食)
午後:アクティビティ (時期により伝統行事見学等)
- (3日目) 村内でおみやげを買い帰り帰路へ



- ◇1泊2日、3泊以上など参加者の希望に合わせて対応する。
 - ◇村内イベント、伝統行事の日程に合わせて催行時期を調整する。
- 産業まつり
1月 いざみいぐほ展&オケラレカ
4月 塩屋藩一周トリムマラソン
7月 大塚ダム&キャンドルナイト
8月 大宜味村夏まつり
8月~10月 豊年祭り・海神祭 など

【概算収支計画】

- 価格設定: 8万円/1組(家族3~4名)
- 利用者数: 24組/年
- 収入: 192万円/年
- 支出: (1組当たり)※国内2泊3日の場合
宿泊費40,000円(朝夕2食付)、体験プログラム20,000円、その他4,000円、運営事務局(20%)16,000円

【実施スケジュール】

	春	1年目	冬	春	2年目	冬
プラン策定						
担当者地域資源調査						
連絡先(農泊・民泊)決定						
モニター						
見直し						
本格実施						

【この取り組みのねらい】

SDGs(持続可能な開発目標)について、観光は様々な経済分野と関わりが深くあらゆる分野にわたって大きな影響を与える為、持続可能な開発の手段として欠くことのできない分野。日本人のSDGs達成への理解や関心・必要性についての意識はまだ低い、若い世代の社会問題や環境問題への意識は高く、単純な楽しみだけではない観光へのニーズがあります。そのニーズに着目し、「SDGsを学びSDGs達成に貢献するにはどうしたらよいか?」という視点で体験実習や地域住民との交流の中から課題を見つけ、大宜味村の豊かな自然や「IKIGAI」などの特色を活かした施策を提案することで参加者及び地元住民の意識向上を図り、大宜味村の持続可能な観光の姿を具体化したSDGs達成の行動計画につなげていきます。

【地域資源の活用方法(取り組み)】

- **ターゲット**
- ◎ 社会問題・環境問題を学ぶ学生(大学・大学院・短大・専門学校、又は修学旅行生(高校生))
- ◎ SDGsに取組む企業など
- ◎ やんばるの自然が好きなき人
- ◎ SDGsの考え方についてもっと知りたい人

■ **取り組み(案)**

大宜味村としてSDGsの取組を実施していくことを前提とした上で、豊かなやんばるの自然と世界から注目の健康長寿につながる生き方「IKIGAI」を中心に、大宜味村の「持続可能な観光」を実現していくには何が課題で何が可能なか、どのような行動が求められるのかを現場での実習を通じて議論し、外から見た若者の視点で具体策を提案。SDGs目標の達成と共に大宜味村全体の活性化に活かしていく。

◎ 社会問題や環境問題などについて学ぶ学生やSDGsに取組む企業等の研修・実習の場として展開していく。

◎ SDGsとは何かを学ぶ(講演・ワークショップ等)

◎ 大宜味村内の「海」「山」「人」「文化」等現場での実習・交流を通じて見つけた課題について、グループごとに議論し実効性の高い行動計画や政策提案を作成。最終日に地域住民や役場職員の前で発表を行い、大宜味村のSDGsの取組みに活かしていく。

【情報発信】

- WEB(村・観光協会等のHP等)、SNS等での情報発信
- 旅行会社へ情報提供(7'ロク'ラム提案・資料提供)
- 大学等教育機関への情報提供
- 企業向け研修受入を行う県内7アンリテーターへ情報提供

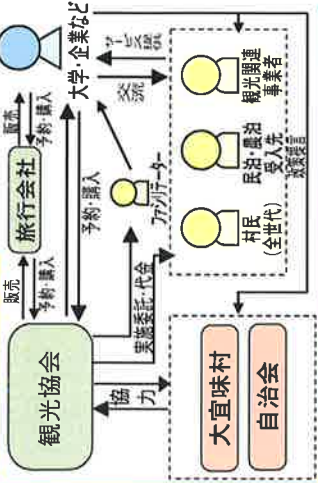
【効果と課題】

- ◎ 地域資源の活用と持続可能性の両立の実現
- ◎ SDGsの取組みに積極的な自治体として注目される
- ◎ 交流人口、関係人口の増加で地域活性化
- ◎ アロモーション・受入の為に組織強化
- ◎ 7アンリテーターの確保・育成
- ◎ 農(民)泊受入先の確保、住民の理解と協力
- ◎ 参加者の安心・安全の確保

【活用する地域資源】

- **大宜味の自然・アクティビティ**
- ◎ やんばるの森、海、川、滝
- **農泊・民泊**
- ◎ 農作業、やんばるの島野菜
- **健康長寿 (IKIGAI)**
- ◎ 大宜味ライフスタイル、長寿食、おじい、おばあ
- **大宜味村民・生活**
- ◎ 辺士名高校環境科の学生他全村民

【実施体制】



【行程案(4泊5日)】 ☆グループ分けし各集落に振り分ける

- (1日目)大宜味村を知る・SDGsって何?
 - 大宜味村内観光→オリエンテーション→基礎講義→ワークショップ(カードゲーム2030SDGs)→ウェルカム交流会→民泊(グループ毎に担当の集落で宿泊)
- (2日目)住み続けられるまちづくりを
 - 導入(集落の概要)→集落踏査(現場で「課題」をとらえる→グループワーク(集落のSDGs達成度を可視化)→郷土食づくりり夕食交流会
- (3日目)海の豊かさ・陸の豊かさを守る
 - 導入(自然環境保護、大宜味村の農林水産業等の現状)→実習(海岸調査、山歩き、農業体験等)→グループワーク(実習振り返り等)
- (4日目)IKIGAIのライフスタイルを学ぶ
 - 導入(IKIGAIとは)→実習(地域のお年寄りやゆんたくしながらIKIGAIのライフスタイルを見学)→昼食(長寿食作り体験)→グループワーク(発表準備、行動計画について話し合い)
- (最終日)成果発表
 - 発表会：農(民)泊の方々、地域の方々、行政職員等の前で政策提言を行う→修了式・講評→昼食→解散

◇ 地元の学生(辺士名高校生等)も交流会又はグループワークに参加し意見を出していくことで、大宜味村のこれからは一緒に学び考えていける場を作っていく。

◇ 参加者(村民含め)はSDGs達成のため考え行動する主体者としての意識を高めていくことにつながる。

【概算収支計画】

- 価格設定：学生20,000円、社会人30,000円
- 利用者数：3～4組/年(1組10人～40人)
- 収入：60～480万円/年
- 支出：宿泊費、飲食費、バス代、体験プログラム費、7アンリテーターター費用、運営サポート費、保険料、事務手数料

【実施スケジュール】



ピジターセンターの活用 ~イキキした村民に会える場所~

【この取り組みのねらい】

- 新たにできた「やんばるの森ピジターセンター」がやんばる3村の入口となり、今後は大宜味村、さらには北部観光の顔になります。
- 長寿の村大宜味村は海外からも注目されており、海外からのTV取材や生活を見に来たい人が多くいるが、村に住む高齢者と話をしたり生活を見る機会や場所を準備していないため、フラットと訪れても対応できていない状況です。
- 大宜味村を広く知ってほしい、村民と触れ合える場所を提供するとともに、周辺市町村の大人も子供も気軽に利用したい！と思う取り組みを提供します。

【地域資源の活用方法(取り組み)】

- ターゲット
 - ◎長寿に関心があり、長寿につながる大宜味村の生活を見たり高齢者と話がしたい人
 - ◎小さい子供連れの家族(村民・周辺市町村民)
 - ◎これまでは通過して北部に向かっていた観光客

■取り組み(案)

- ◇いつでもゆんたく：村内の高齢者を毎日交代でピジターセンターに集め、センター広場で買い物客とゆんたくしながら地元野菜等を販売。(大宜味ゆんたく市場) →大宜味の日常生活に触れる
- ◇言葉の壁を無くす：海外からの来客に対応できるように、おじい・おばあ英語教育を実施。また、どこの国の人を訪れるか分からぬので、多言語音声翻訳アプリを入れたスマホを常に用意し、スクリーンに映すなど準備しておく。 →訪れた人全てにおもてなし

【情報発信】

- ピジターセンターでゆんたくしている様子を毎日LIVE配信(大宜味おじい・おばあの日)
- TwitterやYoutubeで「イベント情報」「移動販売情報」や「大宜味おばあの日常」等を配信

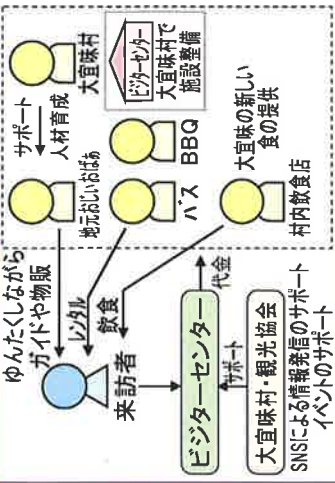
【効果と課題】

- ピジターセンターが大宜味村の広告塔になる
- 広く大宜味村や大宜味のライフスタイルを知ってもらえる事ができる
- ✖高齢者のピジターセンターまでの移動手段の確保
- ✖公園整備や屋内施設整備

【活用する地域資源】

- ピジターセンター
 - ◎地元農産物や特産品の販売
 - ◎公園や屋内施設の整備
- 村内の元気な「おじい」「おばあ」
 - ◎長寿の秘訣に触れる
 - ◎大宜味の生活を知る
- ピジターセンター前の津波海岸
 - ◎美しい海岸の景観・ビーチ
- 大宜味の珍しい店

【実施体制】



◇やんばるの珍しいお店の移動販売：

「KIZAHA COFFEE」[OKINAWA CAO]などの地元の店の味を気軽に味わえる移動販売(キツチカー)を、交代しながらピジターセンターで実施し、広く観光客に知ってもらおう。
⇒やんばるの新たな食を楽しむ

◇津波海岸の利用：

ピジターセンターで食材を購入してもらい、BBQセットを貸し出すようにすることで、目の前にある津波海岸のビーチで手軽にBBQを楽しめるようにする。⇒手軽にビーチパーティー

※これまでの大宜味村の長寿に関するTV取材実績(海外からは長寿の村=大宜味村として知られている(以下Web検索によるTVロケの状況))

- ・日本のTV番組「ようこそ!外国人TVクルー-Theロケ地Japan」7月1日のTVクルー
- ・7月1日の教育テレビ「7月1日」で取材(7月1日)を紹介する番組
- ・7月1日の民間テレビ局「TF1」で平良敏子さんを取材(トキメキ1-番組)
- ・7月1日のテレビ局「M6」で平良カズさんを取材(ZONE INTERDITE) 等



【実施スケジュール】

春	1年目	冬	春	2年目	冬	春	3年目	冬
	知い、おばあ創設			継続的なおじいおばあ勉強会				
	移動販売の準備			大宜味ゆんたく市場の本格実施				
	子どもへの支援			見直し				本格実施
	ゆんたくの活用							
	公園前屋内施設の検討							施設整備

【概算収支計画】

- 収入：農産物・特産品販売、イベント時の物販、BBQセット材料、バスタブAー代金
- 支出：おじい・おばあへの日当、バスタブ材料、移動販売車の補助金、新たな施設整備費

施設 04-2 大宜味村役場旧庁舎の保存と活用

～大宜味のシンボルとしての新たな役割～

【この取り組みのねらい】

- 大宜味村役場旧庁舎は、1925年(大正14年)に建てられた現存する沖繩で最も古い鉄筋コンクリートの建築物である(2017年国指定重要文化財に認定)。役場庁舎としては全国的にも先駆的な事例であり歴史的にも貴重な建物であるが、それを知る人は多くはない。
- 近年は建物の老朽化が進み、今は歴史を伝える以外の役割を特にした旧庁舎を修復復元し『保存』すると共に大宜味村の新たなシンボルとしての役割を与え地域振興に『活用』し役立てていく。

【地域資源の活用方法(取り組み)】

■文化財の保存・活用について

文化財の保護については、文化財保護法第1条において、「文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献すること」が目的として掲げられており、文化財の価値を損なうことなく後世に継承する『保存』と、より多くの人に干渉・体験してもらうこと等を通じて地域や社会の核としての役割を果たす『活用』の双方を進めることが求められている。特に近年においては、文化財の活用が地域振興や観光振興、ひいては地方創生にも資するとの認識が高まってきており、文化財の活用で期待される効果や役割が拡大している。

【文化庁の文化財の「保存」と「活用」についての考え方】

保存 → 文化財の適切な状態での維持(日常的な管理、修理等)
活用 → 文化財の公開による活用(鑑賞・学術的利用)
 ・文化財の地域振興等への活用
 地域振興への活用とは、具体的には、現在は当時の用途・機能を失っている文化財を本来の価値を保存継承していくことを前提に、観光関係施設、地域産業のシンボル、教育関連施設など新たな意義と機能を与えて、それに沿った形で活用を図っていくことと考えられる。

■大宜味村旧庁舎の新たな役割

【案】創建時の姿へ保存修復復元工事を行い、大宜味村の歴史文化の継承に加え、カフェを併設することで多くの人が集う新たな憩いの場として生まれ変わる！！

【情報発信】

- 各種メディア(TV・ラジオ・雑誌等)に取材してもらい発信する。
- SNSを利用したPR。(SNS映えを意識)
- 観光協会と連携し、道の駅や交流市町村等への宣伝
- 修学旅行生への宣伝(将来の来訪者)

【効果と課題】

- 文化財の継承・保存と知名度向上
- 新たな観光施設として幅広い客層の開拓
- 日常的な管理体制の確保
- 文化庁への申請など十分な事前準備が必要
- 資金確保、人材確保
- 維持管理費用の管理及び運営方法等
- 地元住民の理解と協力

【概算収支計画】

- 修復復元(7カパ・パ・パ)費用：4,000万円
(鉄筋コンクリート造：坪単価80万円(約50坪)※市場相場)
- 利用者数：約1万人/年(席数20席/平日20人土日祝60人)
- 収入：約1030万円/年(客単価1,000円)
※日別別割客数(席数)×客単価×営業日数25日
- 支出：食料等原価、人件費、建物使用代、水道光熱費、通信費、備品補充費、販売促進費、雑費

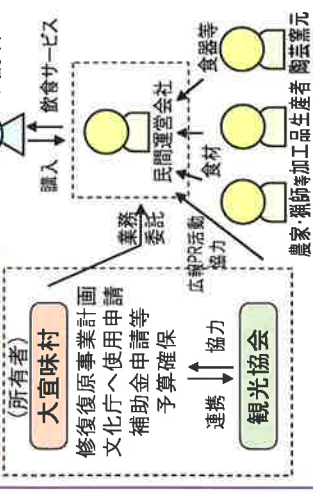
【実施スケジュール】

1年目	2年目	3年目	4年目
<ul style="list-style-type: none"> 修復原案設計 修復原案申請 修復原案審査 修復原案決定 修復原案実施 修復原案完了 	<ul style="list-style-type: none"> 修復原案設計 修復原案申請 修復原案審査 修復原案決定 修復原案実施 修復原案完了 	<ul style="list-style-type: none"> 修復原案設計 修復原案申請 修復原案審査 修復原案決定 修復原案実施 修復原案完了 	<ul style="list-style-type: none"> 修復原案設計 修復原案申請 修復原案審査 修復原案決定 修復原案実施 修復原案完了

【活用する地域資源】

- 大宜味村役場旧庁舎
- ◎歴史的に貴重な建物を保存すると同時に地域振興のシンボルとしての新たな役割を持たす。
- 大宜味村の「食」ともてなす「人」
- ◎シークワワーサー、和そば、ヤマシシ、地元野菜、コーヒーなど

【実施体制】



＜大宜味村役場旧庁舎は…＞

- ◎「現存する沖繩で最も古い鉄筋コンクリートの建築物」であることがあまり知られていない。→もっとアピールすべき！
- ◎白い洋館風のレトロな建物沖繩では珍しいが県外では多く見られ、実際に文化財が現役の公共施設、観光施設等として使われている事例が多くあり、このような洋館の歴史的建造物を好む一定層のファンがいる。→新たな訪問客層の開拓



【旧庁舎活用案】



◎内部は大宜味村の歴史文化を伝えるスペースを整備。加えてゆつたりとした空間のカフェスペースを設け、大宜味村の特産物を生かした「美味くて映える」名物メニューを提供するカフェを併設。それ目当てに訪れる客は必ずいると考えられる。通過型から「大宜味村を訪問する」を目的に。→大宜味村を知ってもらう機会



◎テイクアウトのできる商品(コーヒー、サンドイッチ、スイーツ等)を提供することで土産として持ち帰ってもらったり、カフェエで使用している大宜味産の食材や器を購入できるようなにする。→リピーターになってもらう。

■文化財を保存・活用することの意味

- ◎文化財の継承に配慮しつつ、地域一帯には地域住民が文化財の意義をより積極的に活用することには地域住民が文化財の意義をより身近に理解することにつながる。
- ◎活用されずに放置されたままだと日常的な点検・清掃・修繕等が行えずに劣化・風化してしまう危険性がある。積極的に活用することは、日常的な管理体制の確保につながる。
- ◎行政の限られた財源で保存することは困難と考えられるため、可能な範囲で積極的に公開し、更には今日の価値に二重に込めて積極的に活用することで、活用の対価として料金を徴収する道が開け、保存の為に資金確保につながる。
- ◎保存修復工事費は、文化庁が交付する文化財事業への補助金制度や地方一括交付金等の公的補助、又はクラウドファンディングなど様々な形で資金を確保。
- 文化庁への申請、許可が必要
- ◎文化財を地域振興のために活用するには、文化庁に申請し許可を得なければならない。

「道の駅おおぎみ」から「海の家おおぎみ」へ～海と星に近づける場所～

【この取り組みのねらい】

- 沖縄の昼間の日差しは強く、屋外での長時間の活動は難しい。
- 「道の駅おおぎみ」の機能が、新たにできたやんばるの森ビジターセンターに移るため、旧道の駅おおぎみ（大宜味村農村活性化センター）の施設には、これまで以上に観光振興への活用が期待される。【目の前が根路銘海岸という絶好のロケーション】
- 天気や時間に関係なく楽しく楽しめる場所。

【地域資源の活用方法（取り組み）】

- ターゲット
 - ◎ これまで車で来て大宜味村を通過していた人
 - ◎ 何度も沖縄に来ていて沖縄の魅力をもっと知りたいたいと思っている人
 - ◎ 昼間だけでなく夜の沖縄の自然も感じたい人
 - ◎ 海の体験も室内の体験もいろいろやりたい人
 - ◎ 天気が悪くても沖縄を感じて楽しみたい人

【取り組み（案）】

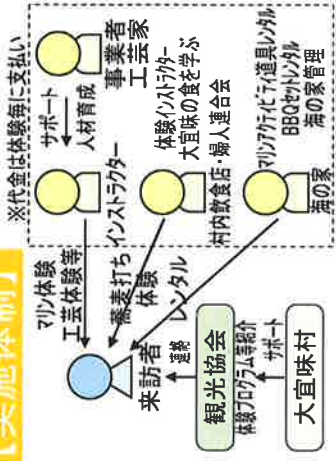
- ◇ 旧道の駅おおぎみを、「海の家おおぎみ」としてリニューアルして活用する。
- ◇ これまで通過していた観光客を引き留め、案内板を設置する。
- ◇ 根路銘海岸で遊ぶ人の休憩所として活用。
 - ・ 更衣室、シャワー、マリアクレティブ体験、貸し出し、マリンスポーツ体験、マリソックス体験
- ◇ 海辺で休憩する人たちの利用。
 - ・ ベンチ、パララー（軽食・ドリンク）、大宜味村の自然の紹介（写真展示）



【活用する地域資源】

- 大宜味村農村活性化センター（旧道の駅おおぎみ）
 - ◎ 各種体験、更衣室、宿泊、食事
- 根路銘海岸
 - ◎ ビーチ、マリンスポーツ、キャンプ、BBQ
- 大宜味村の美しい星空
 - ◎ 夜の体験（星空観察）

【実施体制】



【コンセプト】大宜味村のきれいな「海」と「星空」を知ること、またこの場所に来たくなる



◇ 海岸沿いでビーチパーティー。
 ・ パラソル、BBQセット等の貸し出し
 ・ 食材はビジターセンターで購入可

◇ 天気が悪い日でも室内での体験ができる。
 暑い日中の日差しを避け屋内で体験ができる。
 ・ 天候に関係なく屋内での体験ができる。
 ・ 和蕎麦のそば打ち体験、芭蕉紙作り体験、木工体験、陶芸体験等、大宜味村ならではの体験ができるようにする。



◇ 昼の海だけでなく、夜景や夜の星空も楽しむ。
 ・ 「海の家おおぎみ」に宿泊施設を設ける
 ・ 根路銘海岸でキャンプ
 ・ 海岸に寝るべって、波の音を聞きながら星空観察
 ・ テントの中から、宿泊施設の窓から星空観察
 ・ 波の音を感じながら宿泊
 ・ 車で星空観察スポットを巡る（石山展望台、六田原展望台、江洲集落等）



■「海の家おおぎみ」をベースとした1日観光プラン

- 10:00インカ-で海の家おおぎみ着（道具等インカ-）
 ~12:00（SUP等マリアクレティブ体験）
 - 12:00~13:00昼食（ぶながや食堂）
 - 13:00~15:00最も日差しが強い時間帯は室内でのそば打ち体験等（海の家おおぎみで実施）
 - 15:00~18:00村内の観光スポット散策
 （ビーチでBBQ、海水浴…）
 （キャンプをする人はテントの準備）
 - 18:00~19:00ビーチで夕日（根路銘海岸）
 - 19:00~20:00夕食（やんばる横町等村内で夕食）
 - 20:00~大宜味の夜を感じる
 - ・ 根路銘海岸で星空観察 → 各自宿泊
 - ・ 星空ツアーガイドと共に村内星空観察スポットに行き星空観察 → 各自宿泊
 - ・ 夜の海岸散歩 → 各自宿泊
 - ・ 夜のやんばるの森体験 → 各自宿泊 等
- （雨天の場合は、夜の外での活動は危険なため、海の家おおぎみでゆんたく）

【情報発信】

- やんばるの森ビジターセンターに「海の家おおぎみ」の案内版を設置
- 海の家利用者全員に、SNSで夜景や夕日、体験の様子や星空について発信してもらう（口コミ）

【効果と課題】

- 大宜味村にきれいな海岸や星空があることを知ってもらう、来てもらう
- ✖ 農村活性化センターが活用可能か
- ✖ キャンプ等で利用できる場所の確認
- ✖ 夜の体験の安全性確保

【概算収支計画】

- 収入：マリソックス貸し出し料、更衣室・シャワー使用料、BBQセットレンタル料、マリソックス体験料、パーク売り上げ、宿泊費
- 支出：農村活性化センター使用料、海の家への改造費用、体験インストラクターへの支払い、

【実施スケジュール】

年	1年目	2年目	3年目
※海の家おおぎみの施設整備			
施設利用案検討			
体験インストラクター、星空ツアーガイドの育成			
施設利用案見直し			
本格運用			